

C-29 身長の計測方法に関する一考察 ——姿勢による誤差について——

新潟大教育 ○清水 薫
三重大教育 伊藤 令子

1. 私共は、身長ならびに身体の高さの計測に際し、計測器具の差異により計測結果に若干の差異の生ずることを経験している。その原因を追求するために、次の実験を試みた。

2. 計測器具として、人類学で用いている MARTIN 氏身長計（a 法）と、普通学校等において健康診断で使用している支柱つき木製身長計（b 法）の 2 つを用いた。実験は、1966 年 3 月に行なった。

被検者は成人男女各 10 名（20 歳～39 歳）で、器具別に身長など長径 6 項目の計測を行い、また計測の直前に写真撮影を行なった。これらの身体計測値と側面写真とにより 2・3 の考察を試みた。

3. 主な結果はつぎのようである。

a 法による方が、b 法より計測値は小である。その差は男子では、平均値 7.0mm 標準偏差 5.3mm、女子では、平均値 5.2mm 標準偏差 2.3mm である。